

君津地域水稻情報 「あぜみち第3報」

平成 27 年 6 月 19 日 君津農業事務所 改良普及課

電話 0438-23-0299 FAX 0438-23-6698

ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kimitsu/>

★ 生育が進み、早生品種の幼穂形成期は9日早い ★ 「ふさおとめ」「ふさこがね」穂肥は6月中旬から

1 君津地域の生育概況

移植時期から続く高温多照傾向のため、生育が非常に進んでいます。そのため、「ふさおとめ」、「ふさこがね」の幼穂形成期は平年より9日早く、「コシヒカリ」も早いところでは既に幼穂形成期に達しています。

生育の前進に伴い、出穂期も早まると予測されますので、穂肥や病害虫防除等の作業が遅れないよう、水稻の生育を確認しながら余裕をもった作業計画を立ててください。

2 生育調査ほの調査結果（6月15日または幼穂形成期調査）

品種	年	田植え日	葉令	草丈 (cm)	茎数 (/株)	茎数 (/m ²)	単葉葉色	幼穂形成期 (※は予測)
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	27	4/16	11.8	59.9	46.2	693.0	39.8	6/9
	平年	4/16	11.4	59.7	44.1	659.1	43.3	6/18
	平年比	±0	+0.4	+0.2	+2.1	+33.9	-3.5	-9
ふさこがね (君津市)	27	4/21	10.0	54.9	39.8	752.2	40.7	6/10
	平年	4/19	10.6	54.9	33.5	646.0	40.7	6/19
	平年比	+2	-0.6	±0	+6.3	+106.2	±0	-9
コシヒカリ (君津市)	27	4/22	11.2	60.3	38.2	748.7	36.3	6/20※
	平年	4/20	9.6	51.4	33.3	625.1	37.3	6/23
	平年比	+2	+1.6	+8.9	+4.9	+123.6	-1.0	-3
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	27	4/19	10.1	64.8	40.2	655.3	36.2	6/17
	平年	4/21	10.4	69.2	33.0	591.4	38.3	6/24
	平年比	-2	-0.3	-4.4	+7.2	+63.9	-2.1	-7
コシヒカリ (木更津市)	27	5/8	8.3	49.5	32.9	565.9	44.5	6/25※
	昨年	4/27	9.8	55.6	24.7	521	39.7	6/25
コシヒカリ (一発肥料) (君津市)	27	5/8	9.5	46.9	40.3	656.9	41.4	6/24※
	昨年	5/5	9.2	56.0	24.2	387	38.8	7/1

※ 幼穂形成期は、幼穂長 1mm となった時で、出穂の 25 日前に当たります。

※ 平年値は過去 5 年 (2010~2014 年) 平均値。ただし、木更津市のほ場は 26 年から、また君津市のコシヒカリ一発肥料のほ場は 25 年から調査を始めたため、平年値はなし。

3 これからの管理のポイント

① 冷温障害に注意

気象庁の発表によると、関東甲信地方では、6月20日ごろから約1週間の間、気温が平年よりかなり低くなる確率が30%以上と見込まれています。早生品種は6月20日頃から冷害危険期(幼穂形成期後10~15日)を迎えると予測され、この時期に日平均気温が20℃を下回ると障害型冷害の危険があります。そこで、冷温の場合は深水管理(幼穂形成期~出穂15日前は10cm、冷害危険期(出穂15~10日前)から8日間は20cm)をしましょう。

○冷害対策品種別の幼穂形成期と冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期	冷害危険期予測※1	出穂期予測※2
ふさおとめ	4月20日	6月10日	6月20日頃から	7月5日
ふさこがね	4月20日	6月10日	6月20日頃から	7月5日
コシヒカリ	4月20日	6月17日	6月27日頃から	7月12日
	5月1日	6月21日	7月1日頃から	7月16日

※1 冷害危険期は予測日から8日間。コシヒカリの冷害危険期は君津地域内で最も早い予測日を記載。

※2 出穂期は、君津地域内で最も早い予測日を記載。

② 幼穂を確認したら湛水管理を始めましょう

中干しから出穂後の水管理は以下のとおりですが、特に「2」は自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために必要な技術です。安全な米作りのために注意して管理しましょう。

1 中干しは幼穂形成期に入ったら終了し、以降、出穂3週間前までは間断かんがい

2 出穂3週間前から出穂2週間後までは湛水管理

(幼穂を確認したら、この期間は田面が露出しないように管理する。また、基肥一発肥料を使用している場合も忘れずに湛水する)

3 出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがい

③ 「コシヒカリ」の穂肥

「コシヒカリ」は「ふさおとめ」や「ふさこがね」と比べ倒伏しやすいので、穂肥は幼穂形成期の葉色、莖数及び草丈から総合的に診断し、慎重に施用しましょう。

幼穂形成期における生育量が適正範囲内であれば、出穂前約18日に当たる幼穂長1cmの時(4月20日植え「コシヒカリ」で6月24日~6月27日頃)に窒素成分で3kg/10a程度を施用します。下表を参考に生育診断を行い、穂肥を調節します。

また、「コシヒカリ」の目標とする生育量はあぜみち第2報を参照してください。

○幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥、倒伏軽減剤の要否判定

生育量(群落葉色×m ² 当たり莖数の値)	少 (2,000以下)	適正 (2,000~2,500)	多 (目安として2,500以上)	
	70cm未満		75cm未満	75cm以上
対策	穂肥の増量、または時期を2~3日早める	出穂前18日に窒素成分で3kg/10aを施用	穂肥の減量(窒素成分で1~2kg/10a)、または時期を遅らせる	穂肥は施用せず倒伏軽減剤のみ施用する

※ 群落葉色は、葉色票(富士葉色カラースケール)での葉色値。

※ 次号は「7月1日頃」発行予定